

視察（研修）報告書

令和6年8月10日

府中市議会議長 様
創生会会長 様

会派名又は 創生会
議員名 真田 光夫

日 時	令和6年8月8日（木）～8月9日（金）
研 修 先	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研 修 コ ー ス	令和6年度 市町村議会議員研修「2日間コース」
研 修 タ イ ト ル	「自治体予算を考える」
参 加 者	真田 光夫 参加人数：120名
研 修 目 的	<p>地方議会は、広く住民の意見や要望を把握し、議論することによって、住民の未来を創造する役割を担っています。地方の財政状況が厳しくなる中、住民の代表として一番身近な存在である地方議会は、まちの財政状況や施策を把握・議論することが重要です。</p> <p>今回の研修では、市町村議会議員の皆様を対象に、行政と共に住民のための予算を作成するにあたり、必要な知識や視点を身につけていただくことを目的としています</p>
研 修 内 容	<p>1日目</p> <p>1. 自治体予算の原則と新人議員の課題： 武庫川女子大学の金崎健太郎教授は、自治体予算の基本原則と民間企業との違いを説明。新人議員は、難解な言葉や大量の資料に戸惑うが、自治体予算の重要性と決算の違いを理解することが求められる。予算の正確な歳入見積もりが不可欠であると強調された。</p> <p>2. 予算の基本原則と議会の役割 予算の基本原則として、会計年度独立の原則や総計予算主義、予算単一主義などが説明された。議会は、秋に予算要求を行い、修正可決や付帯決議を通じて政策に影響を与える役割を果たす。また、予算は住民に公開されるべきであるとの考えが示された。</p> <p>3. 予算審査のポイントと地方交付税の仕組み 予算審査のポイントとして、予算全体の規模、財源不足の有無、将来の財政負担の見通しが挙げられた。地方交付税の仕組みも解説され、各自治体の財政運営における重要な役割が強調された。</p>
所 感	<p>1. 自治体予算の複雑さを学んで 本研修を通じて、自治体予算がいかに複雑で、民間企業とは異なる特有のルールが存在することを学びました。今後は、議会において予算の細部まで理解し、適切な歳入歳出の見積もりを求めていきたいと考えています。</p> <p>2. 予算原則の重要性を認識して 予算原則の研修を通じて、予算作成がいかに厳密なルールのもとで行われるべ</p>

	<p>きかを学びました。特に住民への透明性が重要であり、今後は予算審議の場でその重要性を訴え、適切な監視と評価を実施していきたいと思います。</p> <p>3. 財政健全化への取り組みを強化して 予算審査の重要性と地方交付税の仕組みを学ぶことで、財政健全化への取り組みの重要性を再認識しました。今後は、長期的な財政負担を見据えた政策提言を行い、市民にとって持続可能な財政運営を目指していきたいと考えています。</p>
<p>研 修 内 容</p>	<p>2 日 目</p> <p>1. 歳出に関する基本原則と分析 歳出は、住民のニーズや地域課題への対応、事業の必要性・緊急性、費用対効果、行政改革、次年度以降の展開を考慮し、合理的な経費見積もりを行うべきである。分析は、目的別や性質別に行い、地方公営企業の経費負担基準にも配慮する必要がある。</p> <p>2. 予算と決算のチェックポイント 予算チェックには、歳出歳入の各項目を詳細に分析し、決算では執行済みの収支の有効性を確認。長は政治的責任を負い、議会が「不認定」の決定でも既に執行されたものは有効である。決算書類や監査意見を参考に、余剰金や支出内容を精査すること。</p> <p>3. 財政診断と将来への投資 自治体の財政を診断するために、実質収支や財政力指数、経常支出比率、公債などの指標を活用し、適切な管理が求められる。将来への投資を考慮しつつ、不要なものは処分し、新しい施策に投資するための財政余力を確保することが重要である。</p>
<p>所 感</p>	<p>1. 財政管理と市民の利益 地方財政の基本原則を学びました。今後は、財政管理において住民のニーズを的確に反映させ、限られた予算を有効に活用することで市民の利益を最大化していきたいと考えます。</p> <p>2. 予算と決算の透明性向上 予算や決算の重要性を理解し、今後は透明性を高めるために、監査結果や詳細な支出内容を市民にわかりやすく提供していきたい。また、市民からのフィードバックを予算策定に反映させる取り組みを進めたいと考えます。</p> <p>3. 将来に向けた財政戦略 財政診断の重要性を学びました。今後は、財政力を強化しつつ、必要な投資を行い、持続可能な自治体運営を目指していきたい。また、将来の地域社会に必要な施策に対して、積極的に投資する方針を掲げていきたいと考えます。</p>